

保健所からのお知らせ

関東地方を中心におとなの『風しん(3日はしか)』が増えています！

妊婦、とくに妊娠初期の女性が風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんが「先天性風しん症候群」という病気(耳が聞こえにくい、目が見えにくい、生まれつき心臓に病気がある、発達がゆっくりしているなど)にかかってしまうことがあります。生まれてくる赤ちゃんを風しんから守るため、家族みんなで風しんの予防接種(麻しん風しん混合(MR)ワクチン)を受けることを検討してください。

【どんな流行状況？】



30代～50代の男性が多く発病しています。

昭和54年4月1日以前生まれの男性は子どもの頃に定期接種の機会がありませんでした。

また昭和54年4月2日～平成12年4月1日生まれの男女は接種率が低く、注意が必要です。

【予防するには？】

予防接種をお勧めします。医療機関に電話等で予約してから受診しましょう。

はしか(麻しん)も一緒に予防できる「麻しん風しん混合(MR)ワクチン」で受けることをお勧めします。

女性は **妊娠前に**



**予防接種をご検討
ください。**

(接種後2カ月は避妊が必要。
接種回数は子どもの頃の
接種を含め、2回。)

成人男性は

風しんにかかったことがない方
風しんワクチンを受けていない方
どちらも不明な方



**予防接種を受けることを
ご検討ください。**

(2回接種しても差し支えありません。)

妊娠中の女性のご家族は



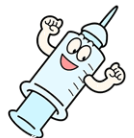
予防接種をご検討ください。

(妊婦は風しんの予防接種を受けられません。)

1歳児(第1期)、就学前の1年間
(第2期)は麻しん風しん混合ワクチンの定期接種を受けましょう。

和歌山市では先天性風しん症候群予防のため、風しん抗体検査・風しんワクチン等予防接種費用助成事業を実施しています。対象者や方法について詳しくはお問い合わせ下さい。

(感染予防対策班 TEL 488-5118)



【もし、風しんにかかったら？】

風しんは、風しんウイルスによって感染します。潜伏期は2～3週間、発熱、発疹、リンパ節腫脹が3大症状です。通常、軽度の発熱とともに発疹が出現します。発疹は顔面から始まり、全身に広がります。リンパ節腫脹は、後頭部、耳後、頸部に目立ちます。予後は、一般に良好で4～5日で軽快します。

症状が出たら、医療機関を受診して診断を仰ぎましょう。周囲に風しんにかかった人がいたときは、受診前に医療機関に電話等でその旨を伝え、医療機関の指示に従いましょう。(風しんに感染している場合は、医療機関で他の患者さんに感染させる可能性があります。)

